

室蘭工業大学-学報

NO.605



留学生交流推進懇談会及び留学生交流会を開催（1ページに関連記事あり）

2020年 3月号

学内の動き

2019年度留学生交流推進懇談会及び留学生交流会を開催

令和2年2月19日（水）に市内の蓬峯殿において留学生交流推進懇談会及び留学生交流会を開催しました。

懇談会では、室蘭や登別の留学生支援団体等の出席のもと、本学から我が国の留学生施策や本学の留学生受入れの取組みについて現状説明を行いました。その後、地域における留学生交流の推進について意見交換を行い、今後の交流事業に生かしていくこととしました。

交流推進懇談会終了後は、帰国・就職等で室蘭を離れる留学生の送別会も兼ねて、学長主催の留学生交流会を開催しました。この交流会には留学生、教職員、日本人チューター学生等学内関係者の他に、留学生の家族や地

域の支援団体等の学外関係者合わせて約180名が出席しました。

交流会では、来賓代表挨拶として青山剛室蘭市長から卒業・修了留学生へのお祝いのお言葉を頂戴し、その後、留学生によるダンスやバンド演奏などのパフォーマンスが披露され、和やかに交流の輪を広げるとともに、会場のあちこちで、本学を去る留学生を囲み別れを惜しむ姿が見受けられました。

また、最後には、1年間の留学生の交流活動がスライドショーとして上映され、大きな拍手のなか閉会となりました。



卒業生による挨拶



タイ人留学生によるダンス

2019年度後期佐藤矩康博士記念 国際活動奨学賞授賞式を挙行

令和2年2月21日（金）に学長室において、2019年度後期佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞授賞式を挙行了しました。

本奨学賞は、室蘭工業大学学生が行う海外での国際的な活動（国際会議での論文発表、研究プロジェクト参加、海外インターンシップ等）を支援することを目的としています。毎年前期と後期の合わせて8名程度を選考し、

1名につき奨学金10万円を授与するものです。

2019年度後期は、選考の結果、博士前期課程環境創生工学系専攻環境建築学コース1年の奥山裕希恵さんに奨学賞を授与することを決定しました。

空閑学長から、受賞者の今後の国際活動について励ましの言葉があり、受賞者は熱心に耳をかたむけていました。



授賞式の様子（奥山裕希恵さん）



記念撮影

地方創生研究開発センター「プレ共同研究（2回目）」の採択

令和元年度地方創生研究開発センター「プレ共同研究（2回目）」公募の結果、次のとおり採択されました。

本事業は、本学教員と民間機関等との研究者が、次年度以降において民間機関等との共同研究へ発展させるための前段階に相当する共同研究に対して助成を行うものです。

研究代表者・職・氏名	民間企業等	採択金額（千円）
しくみ解明系領域 准教授 葛谷 俊博	(株)深川硝子工芸	300
もの創造系領域 助教 楠本 賢太	(株)DBCシステム研究所	300
合 計（2件）		600

学生の表彰

賞等の名称	学科等名	受賞者氏名	指導教員
IEEE Compter Society Best Paper Award	工学専攻	Jianwen Xu	しくみ情報系領域 教授 董 冕雄
IEEE Wireless Communications Letters (WCL) Exemplary Reviewer 2018	工学専攻	Wuyunzhaola Borjigin	しくみ情報系領域 教授 董 冕雄
European Alliance for Innovation (EAI) Best Paper Award	工学専攻	Xiting Peng	しくみ情報系領域 教授 董 冕雄
中華人民共和国札幌領事館 Honorary Credential for International Student Speech Competition	工学専攻	Xiting Peng	しくみ情報系領域 教授 董 冕雄
触媒学会北海道支部 優秀ポスター賞	環境創生工学系専攻	上野 鍊	しくみ解明系領域 准教授 神田 康晴
高分子学会北海道支部 優秀ポスター賞	環境創生工学系専攻	鶴飼 裕康	しくみ解明系領域 教授 中野 英之
化学系学協会北海道支部 2020年冬季研究発表会 優秀講演賞(口頭部門)	環境創生工学系専攻	鶴飼 裕康	しくみ解明系領域 教授 中野 英之
2019年度日本建築学会北海道支部 研究発表会 優秀講演奨励賞	環境創生工学系専攻	奥山裕希恵	もの創造系領域 准教授 高瀬 裕也
2019年度日本建築学会 大会学術講演 鉄筋コンクリート構造部門優秀発表賞	環境創生工学系専攻	菊地 成美	もの創造系領域 准教授 高瀬 裕也
2019年度日本建築学会北海道支部 研究発表会 優秀講演奨励賞	環境創生工学系専攻	窪田 凌平	もの創造系領域 准教授 高瀬 裕也
学会賞： International Congress on Pure & Applied Chemistry Langkawi (ICPAC Langkawi 2018) Student Lecture Award 学会賞の論文： European Journal of Organic Chemistry, 2019, 3882-3889.	環境創生工学系専攻	富樫 嶺	しくみ解明系領域 教授 中野 博人
日本化学会北海道支部 優秀講演賞	環境創生工学系専攻	鳥井 悠人	しくみ解明系領域 准教授 飯森 俊文
第74回土木学会年次技術講演会 優秀講演者賞	環境創生工学系専攻	宮永 圭吾	もの創造系領域 教授 川村 志麻
第41回コンクリート工学年次大会 優秀論文奨励賞	環境創生工学系専攻	武者 右京	もの創造系領域 准教授 高瀬 裕也
平成31年度衝撃波シンポジウム Best Presentation Award	生産システム工学系専攻	伊藤 瑞基	もの創造系領域 准教授 畠中 和明
自動車技術会 大学院研究奨励賞	生産システム工学系専攻	岩野 力斗	もの創造系領域 教授 風間 俊治
日本設計工学会 武藤栄次賞優秀学生賞	生産システム工学系専攻	塚本 庸平	もの創造系領域 教授 風間 俊治

一般社団法人ターボ機械協会 若手優秀講演賞	生産システム工学系専攻	長谷川雄人	もの創造系領域 教授 内海 政春
日本機械学会 三浦賞	生産システム工学系専攻	廣野 達城	もの創造系領域 教授 清水 一道
日本金属学会北海道支部 奨励賞	生産システム工学系専攻	星野 圭祐	しくみ解明系領域 准教授 澤口 直哉
日本機械学会 三浦賞	生産システム工学系専攻	渡辺 俊樹	もの創造系領域 准教授 船水 英希
2019 IEEE Sapporo Section Student Paper Contest, Best Presentation Award	情報電子工学系専攻	秋山 辰裕	しくみ解明系領域 教授 岸上 順一
IEEE Sapporo Section Encouragement Award	情報電子工学系専攻	河井 翔平	もの創造系領域 教授 辻 寧英
電子情報通信学会北海道支部 学生奨励賞	情報電子工学系専攻	河村 真吾	もの創造系領域 教授 辻 寧英
IEEE Sapporo Section Encouragement Award	情報電子工学系専攻	幸田 秋乃	もの創造系領域 教授 辻 寧英
電気学会北海道支部 発表賞	情報電子工学系専攻	佐藤 和志	もの創造系領域 教授 佐藤 孝紀
IEEE Sapporo Section Encouragement Award	情報電子工学系専攻	鐘 正	もの創造系領域 教授 辻 寧英
電気学会 優秀論文発表賞	情報電子工学系専攻	津田 倅司	もの創造系領域 教授 佐藤 孝紀
IEEE Sapporo Section Student Paper Contest Encouraging prize	情報電子工学系専攻	富岡 瞬	もの創造系領域 教授 辻 寧英
電子情報通信学会 エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞	情報電子工学系専攻	富岡 瞬	もの創造系領域 教授 辻 寧英
電子情報通信学会北海道支部 学生奨励賞	情報電子工学系専攻	富岡 瞬	もの創造系領域 教授 辻 寧英
平成31年電気学会全国大会 優秀論文発表賞	情報電子工学系専攻	中田 理幸	もの創造系領域 教授 佐藤 孝紀
電気学会北海道支部 発表賞	情報電子工学系専攻	中田 理幸	もの創造系領域 教授 佐藤 孝紀
電子情報通信学会北海道支部 学生奨励賞	情報電子工学系専攻	野口 啓太	しくみ解明系領域 教授 岸上 順一
IEICE北海道支部学生会 インターネットシンポジウム 優秀発表賞	情報電子工学系専攻	森 洸遥	もの創造系領域 教授 辻 寧英
電子情報通信学会 論文賞	情報電子工学系専攻	森 洸遥	もの創造系領域 教授 辻 寧英
日本建築学会北海道支部 卒業優秀学生賞	建築社会基盤系学科	黒岩笑海歌	もの創造系領域 濱 幸雄
日本建築学会北海道支部 卒業優秀学生賞	建築社会基盤系学科	中澤 望未	もの創造系領域 准教授 高瀬 裕也
空気調和・衛生工学会 振興賞学生賞	建築社会基盤系学科	中澤 望未	もの創造系領域 准教授 高瀬 裕也
日本機械学会 畠山賞	機械航空創造系学科	井関 康善	もの創造系領域 講師 松本 大樹

空気調和・衛生工学会 振興賞学生賞	機械航空創造系学科	伊藤 正孝	もの創造系領域 教授 水上 雅人
日本機械学会 畠山賞（夜間主コース）	機械航空創造系学科	小笠原建佑	もの創造系領域 講師 松本 大樹
日本航空宇宙学会 学生賞	機械航空創造系学科	佐竹 秀元	もの創造系領域 准教授 畠中 和明
精密工学会北海道支部 奨励賞	機械航空創造系学科	澤田 翼	もの創造系領域 教授 水上 雅人
日本設計工学会 武藤栄次賞優秀学生賞	機械航空創造系学科	長岡 祥平	もの創造系領域 講師 松本 大樹
高分子学会北海道支部 最優秀講演賞	応用理化系学科	塚田 琢真	しくみ解明系領域 教授 中野 英之
化学系学協会北海道支部2020年冬季研究発表会 優秀講演賞（ポスター部門）	応用理化系学科	塚田 琢真	しくみ解明系領域 教授 中野 英之
電気学会 北海道支部賞	情報電子工学系学科	高橋 功喜	もの創造系領域 教授 青柳 学

外部資金

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金額(千円)
しくみ解明系領域 准教授 徳 樂 清 孝	そ の 他	400
合 計 (1件)		400

奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金額(千円)
株式会社三共合金鋳造所	工 学 研 究 助 成	1,775
株式会社北建	工 学 研 究 助 成	1,000
株式会社北建	工 学 研 究 助 成	1,500
一般財団法人北海道道路管理技術センター	寄 附 講 座	4,000
株式会社ドーコン	寄 附 講 座	2,000
北海道道路エンジニアリング株式会社	寄 附 講 座	2,000
株式会社砂子組	寄 附 講 座	2,000
株式会社構研エンジニアリング	寄 附 講 座	2,000
精電舎電子工業株式会社	工 学 教 育 助 成	1,000
合 計 (9件)		17,275

「室蘭工業大学の学生さん」

もの創造系領域（創造工学科）
教授 樋口 健

私は2010年5月に機械航空創造系学科航空宇宙システム工学コースおよびもの創造系領域航空宇宙システム工学ユニットに着任して以来約10年間を室蘭工業大学で過ごさせて頂きました。本稿では主に学生さんたちとの関わりの思い出を綴ろうと思います。

着任直後、学生食堂で昼食を取ろうとしました。お茶を1杯だけ欲しくなり給茶器のところに行きましたが、使用方法に戸惑っておりました。「湯のみ」「急須」「冷水」という押ボタンがあるのですが、「お茶」の押ボタンがないのです。急須で大量にお茶が欲しい人は「急須」、お茶ではなく「さゆ」が欲しい人は「湯のみ」、お水が欲しい人は「冷水」、とわかります。多くの人はお茶を1杯だけ欲しいと思うのですが、どうすれば良いのか？ その押ボタンがなくて私は給茶器の前で暫く立ち尽くしていました。すると、知らない学生さん（もちろん当時は全員知らない）が察して、「このボタンです」と教えてくれました。それは「湯のみ」ボタンでした。急須サイズに対する湯呑みサイズの「お茶」を意味していたのでした。親切な学生さんだなと思いました。実はこんな小さなことで、室蘭工業大学でのスタートにおける私の本学学生に対する印象は大変良いものとなりました。

前の職場では廊下で会っても挨拶してくれる人は少なかったのに対し、室蘭工業大学では廊下を歩くと学生さんが挨拶してくれます。良い職場、良い学校だなと思いました。授業中は私語もなく真面目に聞いてくれます。宿題もだいたい人は期限通り提出してくれます。卒業研究や修士研究で研究室に配属されると、ほとんどの学生さんは礼儀や節度をわきまえています。大学生としてやらなければならないことは我がままを言わずやります。卒業してからも連休や就活で研究室に寄ってくれると話が弾みます。このような大学で約10年間を過ごせたことに私は感謝をしています。

学生さんの勉学に対する能力や意欲に幅があるのは当然のことで、一を聞いて十を知るタイプと、逆に十を聞いても一しかわからないタイプがいます。しかし、人は十人十色でして、だからダメとか落第とかいう問題には直結しません。後者の学生であっても、不器用ながらも努力して卒業して行きます。話してみるとどの学生にも

それぞれ良い持ち味があり、普段の成績や見えている生活態度だけで全てを判断してはいけないなあと思わされます。どの学生も明日の日本を担う有為な人材なのだとわかります。

大学の教員は研究成果で評定されます。どの教員にとっても1日は24時間しかないのですから、効率良く研究成果を出すことを要求されます。皆が効率を上げると、今度はその上がった効率がスタンダードになるので、イタチゴッコに効率を上げなければならなくなります。私のわずか10年間の印象ですが、教員が教育に割く時間がだんだん減って来ているように思えます。その代わり、本学の研究成果は上がって来ているとのことで、これは素晴らしいことです。人材育成というものはあまり効率を上げられない分野だと思うのですが、また、成果をすぐには測りにくい分野だと思うのですが、教員は学生さんと会話する時間を惜しんで研究やそれにまつわる雑用に追いまくられて来ているように見えます。まだ実態がよく見えて来ていない、政府の「働き方改革」が推し進められると、ますます学生さんと勉強や研究指導や生活問題に関して対話する時間を減らさざるを得ないのではないかと思います。しかし、学生気質の方も、もし教員からあまり干渉されたくないと思うようになって来ているのであれば、両者の利害が一致しているということになりますので、問題視することはないのでしょうか。私が本稿の前半で述べた本学の素晴らしい学生像が維持されることを切に望みます。

学生さんの自発的な努力が結集した事例を取り上げることにしましょう。それは、本学初の人工衛星「ひろがり」ミッション部開発です。これには本学で研究開発された工学技術の2つの世界初が搭載され、衛星サイズこそ超小型ではありますが、ここで宇宙実証される技術は近い将来の超大型宇宙構造物に適用できる大きな夢と実用性を抱いた技術です。この衛星ミッションの開発は、学生さんたちの自発的で自律的な努力によって成り立っており、スケジュール管理やインターフェース管理など地味でありながら細心の気配りが必要なことまで良く考えて進めている姿には感動させられます。教員が関与しないいわゆる学生衛星ではなく、教員も関与する形態ではありますが、私はこの学生さんたちの頑張りは信頼で

寄稿

きるものと思うようになりました。学生さんたちのためにも、またクラウドファンディングで応援を頂いている市民の皆さんのためにも、成功させてあげなければと思っています。私の在職中に打ち上げが間に合わなかったことは心残りですが、技術と実績は伝わっていくものと期待しています。

このように、私は室蘭工業大学の学生さんに将来にわたって期待をつないでいます。最後になりましたが、一人では何もできない私のこれまでの楽しい教員生活を支えてくれました諸先輩方と現役の教職員の皆様に心から感謝を申し上げます。そして、本学の益々の発展を祈念しています。

これまでを振り返って



もの創造系領域（創造工学科）
教授 酒井 彰

本学には1988年（昭和63年）に電気工学科助教授で着任し、本年（令和2年）創造工学科教授として退職しますので、ちょうど平成の時代をまるまる室蘭で過ごしたことになります。その間、所属学科は電気電子工学科、情報電子工学系学科と移り変わり、学部だけでも3回の改組を経験しました。その中でも、1990年（平成2年）の情報工学科の新設や第2部の廃止等を含む工学部の改組、大学院工学研究科修士課程の改組、大学科・大講座制への移行および大学院博士後期課程の設置が、一番大きな変化でした。博士後期課程の設置を旗印に、他大学等からの教員の採用（小生はこれに該当していました）や、これまでとは異なる学科へと教員の所属替えも行われ、それに伴い建物間での実質的な研究室と実験室の移動もありました。大規模な組織改革で時間も経費もかなり費やしましたが、この改組が本学の現在の姿を形成したと思っています。

上記の改組があっても、在任中は、一貫してレーザーラマン分光法を用いたデバイス材料に関する分野で実験的研究を行ってきました。さらに、これまで測定できなかった現象を測定するために、新しいタイプの分光測定装置の開発も手がけてきました。分光測定装置は、光源であるレーザー、分光器、検出器、それらの制御システム、データの解析システムから成り立っています。この中でも、小生の学生時代から大きく変わったのが、制御システムとデータの解析システムです。学生時代（北海道大学）ではパソコンは手に入らず、制御システムは汎用ロジックICであるTTLを用いたデジタル論理回路で構成されていました。実験で得られたデータは、チャートレコーダーで紙に記録されるか、紙テープや紙製のパンチカードにさん孔（穴をあける）して記録していました。数値計算用プログラミング言語Fortranを用いて解析プログラムを作成し、計算処理をしていました。助手の時代（1980年に九州大学理学部採用）になって、初期の日本製のパソコンPC-8800（メモリ64KB）やPC-9800（メモリ128KB）が1982年頃から市販されるようになってきました。パソコンの拡張ボードにTTLで組んだ入出力インターフェイスを自作して制御システムを構成し、パソコンソフトで制御する方式に変化していきます。フロッピーディスクに記録し、BASICを用いたパソコンで解析することが可能となってきました。これらの技術が、

本学において新しいタイプの分光測定装置を開発できた基礎になっています。助教授の時代では、半導体光検出の技術進歩により、デジタルカメラやその検出部を高感度にしたCCDマルチチャンネル検出器が1990年頃から出回ります。この検出器の誕生により、これまでの時間スケールでの測定が、秒スケールへの測定へ大幅な時間短縮となって現れ、そのため、取得できるデータ量が膨大となりました。複雑となった装置の制御システムとデータの解析システムは、自作できないレベルか自作しても時間と性能の面で割に合わない状況となってきました。この頃から、いかに外部資金を獲得し、性能の良い装置を手に入れるかが重要となってきたようです。現在では、制御システムやデータの解析システムはブラックボックスとなり、いかに便利なソフトを手に入れ有用に使うかにポイントが変わってきました。

装置を手作りしていた頃は、学部と修士の学生諸君と共に回路設計、回路制作、ソフトウェア開発、金属加工を行ってきました。その頃の卒業研究のテーマを見てみると、「〇〇装置の開発」とか「〇〇システムの改良」とかが多く現れます。学生諸君と共に中島町にあるオーディオハムセンターに足しげく通い、電子部品等入手し、半田ごてで部品の配線を行ったものです。室蘭で、身近なところから電子部品が入手できることは幸いでした。これらの経験を通して、ものづくりに強い学生を育てることが出来たようです。とにかく、電気電子に強い学生諸君のおかげで、望んだ性能を持つ測定機器を作り上げることが出来ました。

本学は規模が小さな単科大学ですが、その特徴により様々な分野の研究者の方々と交流できたと思います。規模の大きな大学ですと、キャンパスが離れているとか組織が異なる等のため、日常的な会話することもままなりません。本学では会議や食堂などで出会う機会が多く、異分野の先生方と話す機会に恵まれました。これが、共同研究へとつながりました。学内で共著となる最初の論文は、故三沢先生と斎藤（英）先生とのダイヤモンド膜に関するもので、学内で共著となる最後の論文は、世利先生との誘電体マイクロクリスタルに関するものです。この間、学内の電気電子系、材料系、応物系、応化系、機械系、情報系に所属する先生方と共同研究することができ、誘電体、高温超電導体、半導体、磁性、水素吸蔵

寄稿

合金、磁性細菌、金属腐食等で共著論文を発表することが出来ました。これらの成果は、本学にいたからこそ達成できたものと思います。

最後に、研究のみならず様々な点においてお世話になった技術職員・事務職員を含む教職員の皆様に感謝申し上げますと共に、小生の研究室に所属していた学生諸君、共同研究者として係わった他学科の学生諸君に感謝いたします。

「見る前に跳べ」



しくみ解明系領域（システム理化学科）
教授 岸上 順一

大学を卒業して最初に入ったのは当時電電公社と呼ばれたNTTの研究所だった。その後凡そ5年ごとに研究テーマや組織を変えて今に至っている。それほど意識的に変えたつもりはないが、5年ほど同じことを続けると変化を求めてしまう性格のようだ。大学の頃、変わることとはとにかくいいことだ、と誰かに言われて以来、迷ったときは変化のある方向に自分を動かしてきた。

マレーシアの大学で教鞭をとっていたとき、工大の公募を見つけた。大学が北海道だったことと、1993年に工大に非常勤で来た時の印象があまりによかったので応募してみた。ここを選んだもう一つの要因はコンパクトでありながら研究環境が整っていることだった。中でも最も大きな要因は教員と職員のコミュニケーションだった。6年たった今、この見通しの正しさを改めて感じている。常にわがままな教員の意見を最大限サポートしていただけることに感謝している。これが最も重要な研究環境だと思う。

最初の2年くらいは、外部との強いつながりができず悶々としていたこともあったが、ある時から急に繋がりがだした。随分無責任に引き受けた案件も多いため周りに迷惑をかけていることも自覚している。でもNTT時代から頼まれたことはよほどのことがない限り「No」と言わないことを叩き込まれた。あの頃は依頼された時の答えは「Yes」か「はい」のどちらかしかないと言われていた。すべての案件は引き受けてからの対応で決まる。最初からうまくいく保障のあることや、その反対のものなんてそんなにない。

大学の内外でのコラボレーションが重要だと言われ続けている。でもなぜか広がらない。その原因の一つが挑戦という遊び心の欠如ではないだろうか。工大の先生も学生も良くも悪くもまじめすぎると思う。やってみて失敗すりゃ次を探せばいいじゃないという感覚が少ないと感じる。ただ、ハチャメチャにやりゃいいということはさすがにない。学生時代であればそれもありだと思うが、教員になってなおかつそういう態度を見せようとする、裏には綿密な計画が伴わなければならない。

W3Cという国際的なインターネットの技術標準を決める団体で3期6年間ボードメンバーを務めてきた。2年に一回選挙で選ばれるのでなかなか大変だった。IEEEなどの国際的な学会でもそうだが、日本から立候補してもなかなか当選しない。ボードの会議は集まるのが年に5、6回、それ以外に2週に一度電話会議がある。一番学んだのは、プロジェクトの進め方とボランティアとしての役割の重要性だ。日本人が誰もいない中での動きはそれなりに大変ではあるが、ダイバーシティを重要視する態度が浸透しており、人間性が濃く反映した会議である。

大学の教員で国際的な学会で活躍する人は少なくないが、標準化となるとまだまだ限られる。言葉、費用など多くの要因は考えられるが、最近は政府の助成も充実してきており、専門知識や技術を生かした形でぜひ果敢に挑戦してほしい。そこでは単に技術的な優位性を説くだけではなく、自分の意見を如何に多くの人に納得してもらおうかというような話術も求められる。と同時に会議の外での付き合いも同じくらい重要だ。日本の居酒屋での飲み会と似たようなものだ。彼らは実に話題が豊富だ。もちろん仕事の話もするが、趣味、料理、ワイン、建築、音楽など多彩だ。サンフランシスコでAppleの非常に有名な技術者、彼もボードメンバーの一員、と呼ばれ彼の家に行ったことがある。マーケットストリートの一角にある倉庫を改造した素晴らしいデザインの部屋で、真ん中にはイタリアの有名な高級ピアノであるファチオリが置かれており、その近くに私と同じMagenepanの特種なスピーカーを擁したオーディオがあった。彼はどんなに疲れても一日の終わりにこのピアノを弾くことが楽しみなんだと言っていた。そのとき、ナパのワインを飲みながらオーディオ談義に花を咲かせたのもいい思い出だ。

こんな機会も、ある日の夕方千歳空港に出張から戻った時に、某著名な先生からもらった電話で、「選挙に出てくれない？」という簡単な会話から始まった。中身もよく理解せず、「いいですよ」と答えていた。それから大変だった。日本会員の票を全部集めたとしても当選最低数の半分くらいにしかならない。昔の友達や仕事で一緒だった人などに連絡した結果、かなり上位で当選し

寄稿

た。当選が決まった日、その人から「よく通ったね！」と言われた。

このように豊かな人生を送っている人たちと付き合える幸せは自分を常に客観的な位置に置くことができ、それゆえ少々のことであっても自分の世界を自律的に維持することができるのだと思う。室蘭には最高の自然環境が揃っている。朝ジョギングしているときにキタキツネや鹿と出くわしたことやイタンキ浜まで走って海を眺めていた時間は自分をリセットできた貴重な瞬間だ。

大きな転機を思い返してみる。大学の先生を諦めてNTTの研究者を選択したとき、日本人初の宇宙飛行士の試験を受けてNASAまで行ったこと、アメリカでの仕事を選擇したとき、IPTVのプロジェクトを率いることを選擇したとき、オーストラリアの大学教授の話を蹴って所長を選択したとき、マレーシアに移住することを選擇したとき、そして室蘭工業大学を選択したとき、ほぼ5年ごとに変わってきた。同じ場所にいるとだんだん居心地が良くなって、それに溺れてしまう自分を感じる。定年退官という他力的な動きではあるが、次の場は少し技術から離れてみようと思っている。

自分の中ではまだまだ具体的に固まっている訳ではないものの、こういう文を認めていると徐々にその方向に動き出している自分を感じている。

定年を迎えて思うこと



技術部 技術専門員
松本 浩明

3月末をもって定年を迎えることとなりました。42年前の昭和53年4月に技術員として採用され室蘭工業大学の生活を始めた時にはこんな日が来るとは想像もしていませんでした。寄稿依頼にお応えして、これまでを振り返り思いつくことを書きます。

電子工学科の電子制御工学講座に配属され、室蘭工業大学での生活が始まりました。安部嘉一先生、土手康彦先生、橋本幸男先生の指導を受けながら同講座を運営する一員として過ごしてきました。高校を卒業したばかりで大学がどういうものかも知らない自分が年上の人間ばかりで構成されている集団のなかに入っていくのは荷が重かったという記憶があります。しかしながら、学生さんを含む周囲の方々が優しく対応してくれたこともあり、緊張も解け徐々に大学生活に慣れていきました。室蘭工業大学における昭和という時代は電子制御工学講座を中心として過ごしたことになると思います。

平成2年に13学科から6学科へと改組されたことにより、電子工学科から情報工学科へと所属が変わることとなりました。情報工学科は新設された学科ということもあって、それまでの小講座制から技術職員5名によるスタッフ制で業務にあたることとなりました。インターネット利用が学内においても始まった時期で忙しいながらも充実していました。平成21年に6学科から4系学科へと改組されてからも基本的には情報工学科の業務を中心として行なってきました。

平成5年には教室系技術職員を組織化した技術部が発足しました。しかしながら、なかなか機能する組織とはなりません。改組の度に実体化するよう方策は取られましたがあまくいきませんでした。平成29年の改組でようやく「教育、研究及び社会貢献活動等における技術に関する専門的業務を全学的な見地から円滑かつ効率的に行う」体制が構築されたと思っています。

自分が勤め始めた昭和53年に教室系技術職員は48名在職していたことになっていました。職員名簿を調べて数えましたが、多少の違いはあるかも知れません。当時の技術職員は講座に配属されていた人が大半だったこともあり、自分にとっては近くの技術職員（電子工学科と電気工学科）以外にはほとんど関わることもなく、職員名

簿を見返してもどんな人だったか思い出せない方が結構いました。

平成2年の改組時点では技術職員は43名となり、技術部発足時には40名、国立大学法人となった平成16年には37名と徐々に減っていきました。現在は再雇用職員を含めて24名ですから、法人化されてから16年間で13名削減されたこととなります。大学収入の柱となる運営費交付金が減らされ続けているという大きな原因はありますが、この技術職員の急激な減少傾向には危機感を覚えます。大学規模が若干小さめの北見工業大学には27名の技術職員が働いていますから、本学の技術部が少人数で効率的に働いていると捉えるのではなく構成数が少ないと考えるべきでしょう。「足らぬ足らぬは工夫が足らぬ」と言われそうな気もしますが、個々の技術職員の努力に依拠するのは限界を超えていると思います。

また、年齢構成も非常に偏りがあります。60歳-64歳：2名、55歳-59歳：3名、50歳-54歳：10名、45歳-49歳：8名、44歳以下：1名となっています。技術部として採用した職員がほとんどいない状況ではありますが、年齢構成の是正について大学として解決していかなければならない問題です。

技術職員は人材の入れ替えが円滑にはいかない職種と言えるでしょう。定年等により大学を離れていく職員に近い能力を持つ人材が確実に採用出来れば問題ありませんが、労働人口が少なくなっていく状況でそう上手くいくとは思えません。上記の年齢構成の不均衡を踏まえた上で、技術の継承や引き継ぎに一定の期間が必要と考えられる業務に関しては、当該職員の定年を待たずに補充する必要があると考えます。技術業務のすべてが該当するとは思いませんが、技術部としてしっかり検討して人事計画を立案していく必要があります。自分の時に着手出来なくて申し訳なく思いますが、技術部を実体的な組織として運営するだけで精一杯でした。

住めば都と言いますが、室蘭での暮らしにすっかり慣れました。出身地の函館は交通の要所として、室蘭は工業都市としての港町であり、まったく趣きの違う景色や潮の香りに最初は戸惑いましたが、高台から眺める風景は素晴らしいですし、イタンキ浜では波乗りを楽しむことも出来ました。新しい景色を見ることが出来ました。

寄稿

室蘭の両側には洞爺湖・登別という温泉地がありますし、サッカー観戦に出かける時のドームや空港へのアクセスもそんなに悪くありません。住みやすい街である慣れ親しんだ室蘭を、あと数年で離れることになると思うと少し寂しい気持ちになります。

定年までのあれこれを振り返ってみました。4月からは再雇用職員として働きますので、引き続きお世話になることとなります。

この大学を離れる際に「我が生涯に一片の悔いなし」と言えるよう残りの室蘭工業大学での生活を過ごしていきたいと思います。

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和2年3月1日	<p style="text-align: center;">〈採 用〉</p> 大学院工学研究科助教（しくみ解明系領域） 兼務：希土類材料研究センター 施設課係員（施設保全係）	脇 舎 和 平 毛 利 優 介	横浜国立大学助教 （新規採用）

訃 報

名誉教授

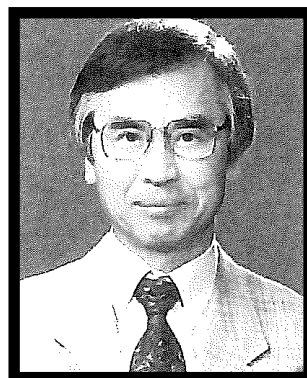
今 井 正 明 (77歳)

本学名誉教授、今井正明氏は、去る令和2年1月27日(月)逝去されました(77歳)。

ここに、生前の功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、北海道大学大学院工学研究科博士課程を修了後、昭和44年4月北海道大学助手、昭和52年7月同助教授、平成2年10月室蘭工業大学教授、平成19年4月同名誉教授となられ、現在に至っておりました。

専門は電気電子工学(光学)。



学内会議

学内各種委員会等の開催

< 1月25日～2月24日 >

開催日時 令和2年1月28日（火）
会議名 第16回役員会

開催日時 令和2年2月6日（木）
会議名 第10回教育研究評議会

開催日時 令和2年2月10日（月）
会議名 第11回企画戦略会議

開催日時 令和2年2月12日（水）
会議名 第4回経営協議会

開催日時 令和2年2月12日（水）
会議名 第17回役員会

開催日時 令和2年2月13日（木）
会議名 第7回大学院専攻長会議

開催日時 令和2年2月13日（木）
会議名 第5回教授会

開催日時 令和2年2月13日（木）
会議名 第1回大学院工学研究科委員会

学内行事

- 1月27日(月) 令和元年度室蘭工業大学市民懇談会
- 1月31日(金) 合格発表(私費留学生)
- 1月31日(金) 2019年度環境調和材料工学教育プログラム学内インターンシップ報告会
- 2月7日(金) キャリア形成のためのランチタイムセミナー第13回
- 2月8日(土) 合格発表(推薦Ⅱ)
- 2月13日(木) 合同官公庁セミナー
- 2月13日(木) 学生等支援のための講演会「LGBT+講演会～フレンドリーなキャンパスづくりをめざして～@Muroran-IT」
- 2月18日(火) 第6回大学院博士後期課程英語プレゼンテーション研究発表会
- 2月19日(水) 第37回留学生交流会
- 2月19日(水) 情報電子工学系学科 教授 岸上 順一先生最終講義
- 2月20日(木) HES定期審査
- 2月21日(金) 佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞受賞式

学外行事

- 1月29日(水) 令和元年度第3回国立大学協会通常総会(東京)
- 1月29日(水) 令和元年度国立大学法人等監事研修会(東京)
- 2月1日(土) 室蘭工業大学同窓会新年交礼会(室蘭工業大学を応援する集い)(札幌)
- 2月1日(土) 玉川大学APフォーラム2019「アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化～AP事業の現状と成果～」(東京)
- 2月7日(金) 2019年度全国公正研究推進会議～世界の研究公正の現状と課題～(東京)
- 2月13日(木) 令和2年度大学による地方創生人材教育プログラム構築事業説明会(東京)
- 2月13日(木) 北海道機械工業会&室蘭工大コラボによる高度技術セミナー「トポロジー最適化を活用した新たな設計やデザイン手法とその応用」(札幌)
- 2月17日(月) 令和元年度第2回北海道COC+コンソーシアム協議会(札幌)

編集後記

◆ 教職員の皆様からの随想，提言等の御寄稿，あるいは学報への御意見，御希望，また，日頃感じていることなど多数お寄せくださるようお待ちしております。

(リンコム：総務広報課総務広報係，E-mail：koho@mmm.muroran-it.ac.jp)

(総務広報課総務広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびよん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308